

報道発表



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

平成22年11月19日

第7回 ITER 理事会共同声明の発表について

11月17、18日に、フランス・カダラッシュにて開催されました「第7回ITER理事会」の結果概要についてお知らせいたします。

(同時配布：青森県政記者会、三沢市政記者会、茨城県政記者クラブ)

1. 日時：平成22年11月17日（水） 9：00～18：00（現地時間）
11月18日（木） 9：00～17：00（現地時間）
2. 場所：フランス・カダラッシュ
3. 議題：
 - (1) 開会挨拶（議長、各極代表、機構長）
 - (2) ITER 機構活動報告、諮問委員会等からの報告
 - (3) ITER 計画の運営（年次作業計画、等）
 - (4) ITER 機構の管理・財務案件（2010年予算執行状況、2011年予算案、等）
 - (5) その他
4. 各極参加者等： 別添のとおり
5. 添付資料： 本理事会共同プレスリリース（英文・仮訳）
6. その他：
 - ・「ITER計画」の概要については、以下の文部科学省及びITER機構のホームページをご参照ください。

文部科学省ホームページ：http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/iter/main.htm

ITER機構ホームページ：<http://www.iter.org/default.aspx>

<担当> 研究開発局 研究開発戦略官付
室長補佐 河原（内線 4542）
企画係長 神部（内線 4559）
電話：03-5253-4111（代表）
03-6734-4559（直通）

(別添)

第 7 回 ITER 理事会出席者

(1) 議 長

議長 : Velikhof (ベリホフ) クルチャトフ研究所総裁

(2) 各極代表者等

日 本 : 森口 文部科学審議官 ほか

欧 州 : スミッツ 欧州委員会研究総局長 ほか

中 国 : 曹 (カオ) 科学技術部副部長 ほか

インド : グローバー 原子力庁政策部長 ほか

韓 国 : 金 (キム) 教育科学技術部副次官 ほか

ロシア : ボロフコフ ロシア連邦政府国防産業委員会機関長 ほか

米 国 : ブリンクマン エネルギー省科学局長 ほか

I T E R 機構 : 本島 機構長 ほか

(参 考)

ITER理事会について

ITER計画は、核融合エネルギーの実現を目指し、日本、欧州、米国、ロシア、中国、韓国、インドの7極の協力の下に、国際熱核融合実験炉（ITER；イーター）の建設・運転を行う国際共同プロジェクトである。

ITER理事会は、ITER加盟極の代表（各極4名ずつ）で構成される。ITER機構の活動の促進、全般的な指導及び監督について、責任を負い、ITER協定^(※)に従って、いかなる問題又は事項についても決定及び勧告を行うことができるITER計画の最高意志決定機関である。

(※) 正式名称；イーター事業の共同による実施のためのイーター国際核融合エネルギー機構の設立に関する協定

○ITER計画に関するこれまでの経緯

H18年11月 ITER協定署名（フランス・パリ）

— ITER協定の暫定適用

第1回暫定ITER理事会（フランス・パリ）

H19年7月 第2回暫定ITER理事会（日本・東京）

H19年10月 ITER協定発効

— ITER機構正式発足

— ITER機構に調達機器の納入等貢献を行う日本の国内機関として
日本原子力研究開発機構（JAEA）を指定

H19年11月 第1回ITER理事会（フランス・カダラッシュ）

— 池田ITER機構長、ホルトキャンプ首席副機構長正式就任

— JAEAは他極に先駆けてITER機構とITER用超伝導導体の
調達取決めを締結

H20年1月 ITER機構がフランス政府にITER施設建設認可を申請

H20年6月 第2回ITER理事会（日本・青森市）

H20年11月 第3回ITER理事会（フランス・カダラッシュ）

H21年5月 ITERサイト地盤整備完了

H20年6月 第4回ITER理事会（日本・水戸市）

H21年11月 第5回ITER理事会（フランス・カダラッシュ）

H22年6月 第6回ITER理事会（中国・蘇州市）

H22年7月 臨時ITER理事会（フランス・カダラッシュ）

— ITER計画ベースライン文書合意

— 本島ITER機構長就任

H22年11月 第7回ITER理事会（フランス・カダラッシュ）

プレスリリース（仮訳）

I T E R建設が具体化

11月17、18日、I T E R機構の最高意思決定機関（運営組織）であるI T E R理事会の第7回会合が招集された。フランスのカダラッシュにおける会合には、ロシアのエフゲニー・ベリホフ議長の下、中国、欧州連合、インド、日本、韓国、ロシア、米国の7つのI T E R加盟極の代表が一堂に会した。また、国際原子力機関（I A E A）からの同席を得た。

I T E Rへの長きに渡る貢献を認め、9月に逝去したI T E R理事会の副議長で運営諮問委員会（M A C）の委員でもあった常松俊秀博士に対して、しばし黙祷がささげられた。

本島修I T E R機構長は、I T E R計画の状況報告を行った。2010年7月28日の臨時I T E R理事会においてベースライン文書が承認された後すぐに、この計画は建設期に入った。この報告にはコスト削減及びコスト抑制のための新たな方策が含まれていた。

理事会は、機構長から提示されたI T E R機構の状況報告に留意した。理事会は、機構長が任命以来行った活動を歓迎し、コスト抑制及びコスト削減に向けたI T E R機構と国内機関の間の強い協力を賞賛した。I T E R理事会は、I T E R機構内の最新の進捗と発展の歩調を認めつつ留意した。これは、I T E Rサイトにおける精力的な作業と、スケジュール上重要な機器である真空容器を含む全てのI T E R参加極におけるハイテク機器製造契約の締結を含む。全体で、計画全体の60%を示す46の調達取り決めがこれまでに調印された。

理事会は、コスト抑制の活動のための方策案を支持し、調整を改善するため及びコストを減少させるためI T E R機構及び国内機関より更なる努力を奨励した。理事会は、2011年の年次作業計画及び2011年の予算を承認した。I T E R理事会及びその補助機関の議長等が再任された。

本部建屋のための定礎式典

理事会の外では、理事会メンバー及び専門家と各国内機関長は、地元コミュニティの代表と共に、本部建屋の建設の公式な開始の式典に招待された。この歴史的な機会に際し、I T E R理事会の議長であるエフゲニー・ベリホフ学士院会員は「これはI T E Rの歴史上、非常に重要な瞬間であり、我々の夢が具体化した」と述べた。I T E R機構の機構長である本島修教授は、「我々はカダラッシュに太陽を持ち込む準備ができた。このサイトにおいて、そしてI T E

Rの機器が製造されている工場において、今やスケジュールに従って作業が進んでいる。2019年の終わりまでに初プラズマが達成できるように、スケジュールに従って建設を維持することが私の義務である。」と強調した。最後に機構長は、ロバート=ジャン・スミッツ氏により代表されるホスト極である欧州連合に対しその強い支持に感謝した。

ニュースリリースの背景情報

I T E Rは、世界で最も大きな核融合実験装置であり、核融合エネルギーの科学技術的実現可能性を実証するために設計されている。I T E Rはまた、世界的な協力の最初の機器である。核融合とは、太陽及び星々にエネルギーを与える反応過程である。軽い原子核が融合して重い原子核を形成する時、膨大なエネルギーが解放される。核融合研究は、安全で、無尽蔵で、環境適合性のあるエネルギー源である。I T E R計画は、南フランスのカダラッシュにて進められる。

更なる情報は[www. iter. org](http://www.iter.org)を参照されたい。

Contact:

Sabina Griffith

Email: Sabina.Griffith@iter.org

Tel: +33 (0)4 42 17 66 15

Comments:

ITER takes shape

Cadarache, 18 November 2010 - On 17-18 November, the ITER Council (IC), the Governing Body of the ITER Organization, convened for its seventh meeting. The meeting in Cadarache, France, brought together representatives of the seven ITER Members: China, the European Union, India, Japan, Korea, Russia and the United States under the chairmanship of Evgeny Velikhov (Russia) and an observer from the International Atomic Energy Agency (IAEA).

In recognition of his life-long contribution to ITER, a moment of silence was dedicated to Dr. Toshihide Tsunematsu, Vice-Chair of the ITER Council and Member of the Management Advisory Committee (MAC), who passed away in September.

ITER Director-General Osamu Motojima presented a status report of the ITER project. The project entered the Construction Phase immediately after the Baseline was approved at the extraordinary IC on July 28, 2010. This report included a new strategy for cost savings and cost containment.

The Council welcomed the actions taken by the Director-General since his appointment and commended the strong collaboration between the ITER Organization and the Domestic Agencies towards cost containment and cost savings. The ITER Council noted with approval the recent progress and pace of development within the ITER Organization. This includes extensive work at the ITER site and the placement of high-tech manufacturing contracts in all ITER Parties, including the Vacuum Vessel which is a critical path component. In total, 46 procurement arrangements representing 60% on the total value of the project have been signed.

The Council encouraged further efforts by the ITER Organization and the Domestic Agencies to improve coordination and to reduce costs. The Council approved the Annual Work Plan and the Budget for 2011. The Chairs of the ITER Council and its subsidiary bodies were re-elected.

First Foundation Stone Ceremony for the Head Quarter Building

Outside the meeting, the Council members and experts, Domestic Agency Heads, together with representatives of the local communities, were invited to celebrate the official start of construction of the Headquarters Building. On this historic occasion, the Chair of the ITER Council, Academician Evgeny Velikhov, stated: "this is a very important moment in the history of ITER; it is the day our dream begins to take shape". The Director-General of the ITER Organization, Prof. Osamu Motojima emphasized: "We are now ready to bring a Sun to Cadarache. Work is now progressing on the platform and in the factories where ITER components are being manufactured. It is my duty to keep construction on schedule so that the First Plasma can be achieved before the end of the year 2019".



Finally, the Director-General thanked the Host Party, European Union, represented by Mr. Robert-Jan Smits for its strong support.

BACKGROUND TO THE NEWS RELEASE

ITER will be the world's largest experimental fusion facility and is designed to demonstrate the scientific and technological feasibility of fusion power. ITER is also a first-of-a-kind global collaboration. Fusion is the process which powers the sun and the stars. When light atomic nuclei fuse together to form heavier ones, a large amount of energy is released. Fusion research is aimed at developing a safe, limitless and environmentally responsible energy source. The ITER project is sited at Cadarache in the South of France.

Further information at: www.iter.org